

淡紅だより

No. 42

2014年2月号

宝塚市議会議員

おしまと き こ
大島淡紅子

■ 議員控室

●Tel 0797-71-1141
代表電話でも、お気軽に！
●Fax 0797-74-1810
●E-mail
goiken@tgikai.zaqr.jp

■ 事務所

〒665-0816
宝塚市平井 1-6-14
●Tel & Fax 0797-89-4090
●HP
http://ayumukai.jp/
●E-mail
o-ayumukai@poem.ocn.ne.jp

☆月～金 10:00～15:00
但し、不在のこともございますので、お電話をしていただいてからお越しください。
☆事務所のコピー機・印刷機（新機種入りまし）ご利用ください。（有料）
☆事務所をグループ・サークル等の活動にご利用ください。（無料）
《使用日時は電話でお問い合わせください。》
☆事務所に教育・平和・食の安全等の本があります。お気軽にご覧ください。



2014年が明けました。
本年も皆さまにとってよい年でありますように。

政治や社会情勢は多くの不安を抱えたままですが、今年は私にとって、議員3期目の締めくくりの年です。同時に“市制60周年・歌劇100周年・手塚治虫記念館20周年”という稀代の年でもあります。

議員の仕事―予算を決めること、行政と市民をつなぐコーディネート、そしてこれまで学んだことを、みなさんと共に歩む市民活動の中で活かす、いわばオピニオンリーダー的な役割を果たすことができるよう、今年も研さんを積んで参ります。どうかご指導・ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。



南ひばりガ丘中学校青少年育成市民会議の風揚げ大会。手塚マンガの連風が空を舞った。

議会議案報告

1 主な議案・請願・陳情の審議

・平成25年度宝塚市一般会計補正予算↓全員一致可決
予算総額を73億8千334万3千円とする（17億6千万円を追加。）

◆歳出について

市制60周年記念式典等事業、財政調整基金積立金、自立支援事業、地域生活支援事業、乳幼児等医療費助成事業、私立保育所助成金、私立保育所保育実施事業、新ごみ処理施設建設基金積立金、歌劇100年シテイプロモーション事業、（仮称）中筋2丁目公園整備事業、消防車両整備事業、農林施設災害復旧事業、特別会計公共用地先行取得事業費繰出金などの増額。一方で、職員給与費などの人件費、執行額の確定などに伴う執行残などの減額。市債償還金利子もあり。

◆歳入について

国庫支出金では、自立支援給付費負担金、保育所運営費負担金を増額。県支出金では、自立支援給付費負担金、保育所運営費負担金、農林施設災害復旧事業補

助金を増額。財政調整基金とくりくずし。繰越金では、前年度からの繰越金を減額。諸収入では、違約金及び延滞利息を増額し、派遣職員人件費徴収金を減額。市債では、公園整備事業債、消防施設整備事業債をそれぞれ増額。臨時財政対策債を減額。

◆繰越明許費については、財産管理事業ほか4件を追加。

◆債務負担行為は、市議会60周年記念誌制作業務委託ほか10件を追加。

◆地方債について。公園整備事業債ほか2件を追加。消防施設整備事業債の限度額を増額。道路・橋りょう整備事業債と臨時財政対策債の限度額を減額。

・平成25年度宝塚市病院事業会計補正予算↓全員一致可決

◆収益的収入・支出について。病院事業収益の予定額を104億5千687万9千円（9千603万3千円増）に、病院事業費用の予定額を105億5千523万円（1億9千650万4千円増）にする。

◆資本的収入・支出は、資本的収入を12億3千912万7千円（補助金千891万円増）に、改良費千800万円増）にする。

◆継続費は5千800万円（平成25年度の年割額と総額を2千850万円増）、一時借入金限度額は18億円（7億円増）、たな卸資産購入限度額は1億3千万円（3千万円増）、重要な資産の取得については取得する資産を変更した。主な内容は、前年度末のたな卸金額確定による特別利益の増額、医師・看護師等の人件費の増額など。

・宝塚市営住宅管理条例の一部を改正する条例の制定↓全員一致可決

配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律の一部を改正する法律が施行されている。生活の本拠を共にし、婚姻関係と同様の共同生活を営んでいる、交際関係にある相手から暴力を受けた者については、配偶者からの暴力を受けた者と同等に、市営住宅に入居できるよう入居資格を整備。
DV被害者はなるべく遠くで住もうとするため、市外からの転出を受け入れる、市同士の連携が必要と指摘。

・公の施設の指定管理者の指定↓全員一致可決

指定期間が今年3月31日で満了。4月

1日から2019年3月31日まで、改めて市内10施設の指定業者を認定したが、その中の5施設について。

①市立文化施設ベガ・ホール②市立文化施設ソリオホール③市立宝塚文化創造館（宝塚音楽学校旧校舎）に公益財団法人宝塚市文化財団を指定。

三館一括では、地域に根ざしたNPOなど、小規模団体の参入が困難。民間活力の導入の意義に反するが、市民の考えを検討するとの答弁で賛成。

④市立勤労市民センター⑤市立末広駐車場に特定非営利活動法人宝塚NPOセンターを指定。

センターは解体撤去の予定。従事者は継続雇用の方。労働者福祉の拠点整備は労働問題懇話会に諮る。未知の団体に門戸を上げた市はしっかりサポートを。

他に、⑥スポーツセンター⑦末広体育館⑧高司グラウンド⑨売布北グラウンド⑩地域利用施設御殿山会館についても認定した。



議会報告会で市民の質問に答える。（さららに川にて。）



・宝塚市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定↓全員一致可決

職員給与の削減を前提として地方交付税が約3億700万円減額された。その財源確保策として、役職に応じて職員給与を減額（副課長以上5%、係長2・5%、一般職1・7%）。また臨時的任用職員等の宿日直手当及び通勤手当を改正（33人166万円増）。

・子ども・子育て支援新制度（新制度）に関する請願↓不採択 賛 共産・ユニット・浅谷・大島

2015年4月施行の新制度実施にあたり、疑問や不安を払拭させた上で、関係者や市民の意見を踏まえた議論をすすめる、格差を生じさせない仕組みづくりを。

・中央公民館の存続と地下移転計画の見直しを求める請願

・宝塚市立中央公民館の存続と半地下・地下移転の見直しを求める請願

↓採択 反 太誠・藤本

中央公民館耐震化対策としての、カルチェヌーボ宝塚逆瀬川移転案見直しと、中央公民館存続を求める。

地下であること、年間管理費・積立で5千300万円かかること、管理者の（株）関西都市居住サービスとの契約の見直しもせぬまま新契約に入ることなど問題が多すぎる。早急に決定しないよう求めた。

2 一般質問

1 宝塚の子育て力

Q 行政の役割、特に保育・教育での施策として、どう考えるか

A 公私立全保育所で、家庭や地域社会との連携を深め、専門的機能や施設を地域の子育て支援に供する

Q コーディネーター役としては

A 小学校区・市内7ブロック・全市域の三層構造でそれぞれ事業を。同時に有機的につなげる

Q 地域の役割はどうか

A 子ども条例で、地域社会における子どもの健全育成、子育て家庭支援に努めるよう規定

視察した松戸市では、市が“子育てコーディネーター”を養成。フォローしています。それに対して、宝塚の“子育て支援コーディネーター”は、児童館に委託。しかし、その事業内容は過大で、本当に委託でよいのか、市がすべきではないか、と意見を述べました。

子育てサークルは、フォーマルな社会資源の一つ。「排除・孤立・競争」の対極にある「協同」意識を醸成します。そしてその組織化・円滑な運営支援の過程に、相談役として“保育者”のサポートが肝要となります。しかし、現在の担当者は定年を迎えた継続雇用。サブの方も再任用保育士という状態なので、後継者の育成を訴えました。

児童館の地域での役割の重要性を考え、館によって差が生じないよう質の確保を要望。



保を要望。「赤ちゃん、学校へ行こう！」のように、若い親の社会貢献・改めてわが子を愛おしむ事業を広めてほしい。人生の入口である乳幼児期の取り組みで、市も親もがんばることが、後々社会に大きく影響するのです。



2 市立健康センターについて

Q 工事等のスキームは。工事に伴う市民への影響は

A 4月1日運動指導室を廃止し、休日応急診療所・健康推進課事務室整備。来年3月中に工事完了

Q 事務室の移転によるメリットは

A 集約で事務の効率化。健康相談のプライバシー確保

Q 健康増進のための運動指導の継続性の担保は

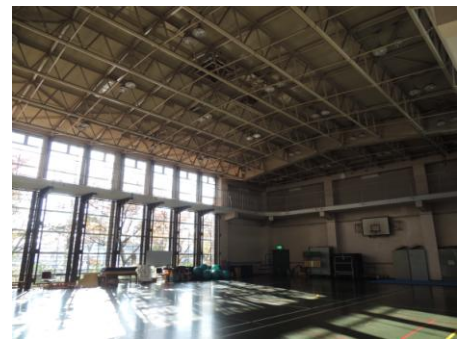
A スポセン・公民館・フレミラ・民間の運動教室を紹介・情報提供

Q 現事務室の今後の有効な活用方法とは

A 案内窓口・啓発スペース・研修会場として活用する

9月議会では、運動指導室利用者を他所で活動できるようにフォローすると答弁があったのでセンター改装に賛成しましたが、その後、利用者から不満の声を聞き、今回改めて質問しました。

また、介護認定者や患者に対しては、介護や医療関係の財政支出の抑制という視点だけでなく、市民の幸福の追求という視点も考慮して欲しい。そのためには



運動指導の役割を“動機づけ”でなく、連続性のある“習慣づけ”にすべしと提言しました。

3. フードバンク活動との協働

Q 食のセーフティネットの面は

法人とは連携していないが、社協の「緊急サポート事業」での緊急支援で食料提供している。今後検討する

Q 学校での食育の面は

今後、先進地を参考に研究

していく



フードバンク活動とは、生産者や食品関連企業から、食べ物としては安全だが商品として扱えない食品を無償で引き取り、支援を必要とする人たちが彼らを支える福祉団体に無償で分配するものです。（参照：農水省・政府広報のHP）一方、大量に廃棄される食品を、有効に活用しようとする「もったいない」意識への変革に繋がります。二つの目的から「フードバンク活動との協働」を提案しました。

生活支援課、学校教育課だけでなく、男女共同参画課（DV被害者支援）、健康推進課（食育フェアでの広報）、そして社会福祉協議会と法人が協働できるよう、今年から協議を進めています。

その他 議会・行政のうき

＊市議会危機対策支援本部を設置、1月17日総合防災訓練で訓練を実施した。

＊2市1町消防広域化協議会：広域化は困難だが、解散せずに広域連携の検討を行う組織となった。

＊阪神水道企業団からの受水：現在自己水8割、県営水道から2割。2017年には自己水・阪神・県営各3分の1に。

＊3名の職員（懲戒処分）の不祥事：市長・副市長の1月分給料・地域手当を更に10%減額した。

＊火災現場での業務再開：行政対象暴力を含む訓練、フラッシュバックを避ける、防火シャッターの危害防止・障害者トイレ内の警報ランプ・LED照明・消火器増設などの改善を行った。

＊NTN跡地：4ha取得。うち1haは上下水道局、1haは（社福）阪神福祉事業団・阪神福祉センター、残りを道路整備・駐車場、更に残りの使い方を市民ワークショップで検討。（但し、土壌改良は速くとも2016年4月30日まで）県に予算要望している。

＊宝塚ガーデンフィールズ跡地：うち950㎡を15・2億円で取得。こちらも市民ワークショップで検討。県に予算要望。

願っています。また障害者や高齢者の施設への配送など、多分野とのつながりを視野に入れると、やはり市と提携するのが望ましいと考え、現在市が検討中です。

介護する人たちのネットワーク

見えにくい家庭内での暴力の一つに“高齢者虐待”があります。子どものように“成長”という好転がなく、



出口が見えない不安やしんどさを抱えた人たちが、同様な状況にある人に話を聞いてもらったり、専門家に学んだりする機会を作る。そうすることで負担が軽減します。市内4つの家族会（介護一般・認知症・若年認知症・男性介護）が連絡会を作りました。最初の仕事は、各会の存在を知ってもらう「リーフレットづくり」。関係部署や関係者をお願いして、リーフレットをお渡ししています。

赤ちゃんとつながり

赤ちゃんとつながり

赤ちゃんの無垢な笑顔は誰をも微笑ませる力を持っています。赤ちゃんを通じて、若い人たちに自らの存在が尊いものだと感じてもらえるよう、学校や若者が集まるところで交流を働きかけています。同時にこの事業は、若い親が社会へ目を向けるきっかけになります。（新年度事業となりました。）



市民の主体的な活動を、行政につなぐ取組みに力を入れています！



地域公共交通“お買いものタクシー”

「住み慣れた家で暮らす」高齢になっても、障害があっても、誰でも当たり前の願いです。少しのサポートさえあれば可能になる、そのうちの一つが交通手段です。今、実験的に、高齢者の多い高台の住宅地で、自治会と業者が契約し定期的にジャンボタクシーがスーパー・駅などへ送迎を行う計画を立てています。乗り越えねばならない課題はありますが、まずはGO！

フードバンク事業との連携

芦屋・尼崎・伊丹・西宮市ではすでに、社会福祉協議会か市の外郭団体と協定を締結しています。それは、支援の必要な人に食料が届く「食糧支援」の意義がありますが、この活動には「食育」という意義もあります。元々、活動の発祥は海外であるので、地球規模で食を考えることができ、団体でも食育プログラムを構築中とのことです、学校現場・市民への食育で活用させてもらいたい。

また、DV被害者の避難場所とは自炊が多いので、独りで子どもを育てようと頑張るお母さんへのエールとして、食料が届くことを





関西広域で考える 男女共同参画フォーラム

以前、宝塚に視察に来られた“鳥取県男女共同参画をすすめるネットワーク”のメンバーが「関西広域連合の所管分野には男女共同参画の視点がない！」と、関係部署に働きかけ、2年後に実現した。

「倉吉未来中心」で開催されたフォーラムに参加した。

1 日目は評論家の樋口恵子さんの講演と「医療・福祉」「防災・環境保全」「観光・文化振興・産業振興」をテーマにした分科会。

樋口さんは「長寿・少子社会を支える女性パワー・シニアパワー」と題し、

- 長寿は平和と豊かさの所産だが、国民の7割は介護力がない世帯
- “地方分権一括法”“介護保険法”“男女共同参画社会基本法”が2000年4月1日施行されたのは、歴史の必然
- 各省庁バラバラで作った政策を、一人一人の一生の中で活かすのが地方自治

と、多様な経歴と広い視野から、少子超高齢社会において性別や年齢で差別されず、個人が主体的に参加参画する意義を訴えられた。

2 日目は分科会報告と、秋山喜久（関西広域連合協議会長、元・関電社長）、笠松和（前・徳島県上勝町町長）平井伸治（鳥取県知事）による座談会。

秋山氏が「企業のみならずこれからの社会の視点は、「文化」「政治による平和」「少子高齢化」と述べられた内容に対して、樋口さんは「10 年前に私が主張しても受け容れられなかった話を経済人がされるとは」と驚き、賞賛されていたのが印象的。

上勝町は、“葉っぱビジネス”で有名な町だが、日本で初めてゴミのゼロ・ウェイスト宣言を行い34分別で資源化したまちでもある。持続可能なまちづくりに、「人材育成・景観保全・産業創出」を掲げる。

鳥取の女性たちの元気。樋口さんの 81 才とは思えない明晰な頭脳と高邁さ。人として、どう生きるかを考えた 2 日間だった。



市民の力で社会を変えよう！連続市民講座最終回に迎えた浜矩子さんと。「アベノミクス、その破たん後の経済政策を展望する」にて。



フォーラムの様子。私も多くを学びました。



学校給食展にて。
上) 節分に因んだ炊き込みご飯
の試食。

下) 生徒の活動報告を展示。



のことでなく、食に関する社会的慣習、つまり“和食文化”が認められたのだ／江戸のまちは、食文化だけでなく、教育、芸術、100%リサイクルのエコロジー、上水道、ファッション、など、同時代の世界で最も文化水準が高かったと思われる／広島大・秋葉忠利教授は、GL指数・人権指数・ボヘミヤンゲイ指数などの数値の高い都市は、寛容度が高く、多様な人材をひきつけることでクリエイティブな産業が発達する、と話された。“多様性を容認する”ことは、経済的にも文化面でも活気あるまちをつくり、文字どおり「豊かな市民生活」を生む。反対に、一元的な規制と押し付けの社会は衰退することを、安倍首相に学んでもらいたい。



早苗田の会

杉山鮎水 選

十一月

特選 昼の鐘からりと枯れし大豆引く

峯子

◇ 老犬もこくりこくりの小春かな

惠之輔

◇ いたづらを探す孫の目お茶の花

綾子

十二月

特選 身の丈の縮む齡や蕪汁

峯子

◇ 薄紅葉くぐりて行くは明日かな

純子

◇ 男爵にめがでてひげが生之にけり

鮎水

NHKの連続ドラマ「ごちそうさん」が好きた。主人公が骨身を惜しまず、家族や近所のこどもたちのために一生懸命料理をする。無駄なく食材を活かすことを考えるうちに、魚などの声が聞こえるようになる。幼馴染が戦地で人を殺し、食べ物を受けつけなくなったが、主人公は「牛乳からは声が聞こえない、子育てのために母体から出す乳は、誰のいのちも取らないか



ら」と、幼馴染を牛乳で救う。スーパーに並ぶ工場製の食材を買う、現代の私たちには、「食べるとは」「生きる」と改めて考えさせられることばかりだ／昨年末、「和食」がユネスコの無形文化遺産に登録された。農水省による「和食」とは、多様で新鮮な食材とその持ち味の尊重・栄養バランスに優れた健康的な食生活・自然の美しさや季節の移ろいの表現・正月などの年中行事との密接な関わりだそう。特定のメニュー

のことでなく、食に関する社会的慣習、つまり“和食文化”が認められたのだ／江戸のまちは、食文化だけでなく、教育、芸術、100%リサイクルのエコロジー、上水道、ファッション、など、同時代の世界で最も文化水準が高かったと思われる／広島大・秋葉忠利教授は、GL指数・人権指数・ボヘミアン・ゲイ指数などの数値の高い都市は、寛容度が高く、多様な人材をひきつけることでクリエイティブな産業が発達す